

# ☆素材生産体制の強化の事例☆(静岡県)

## ビジネス林業の展開の支援

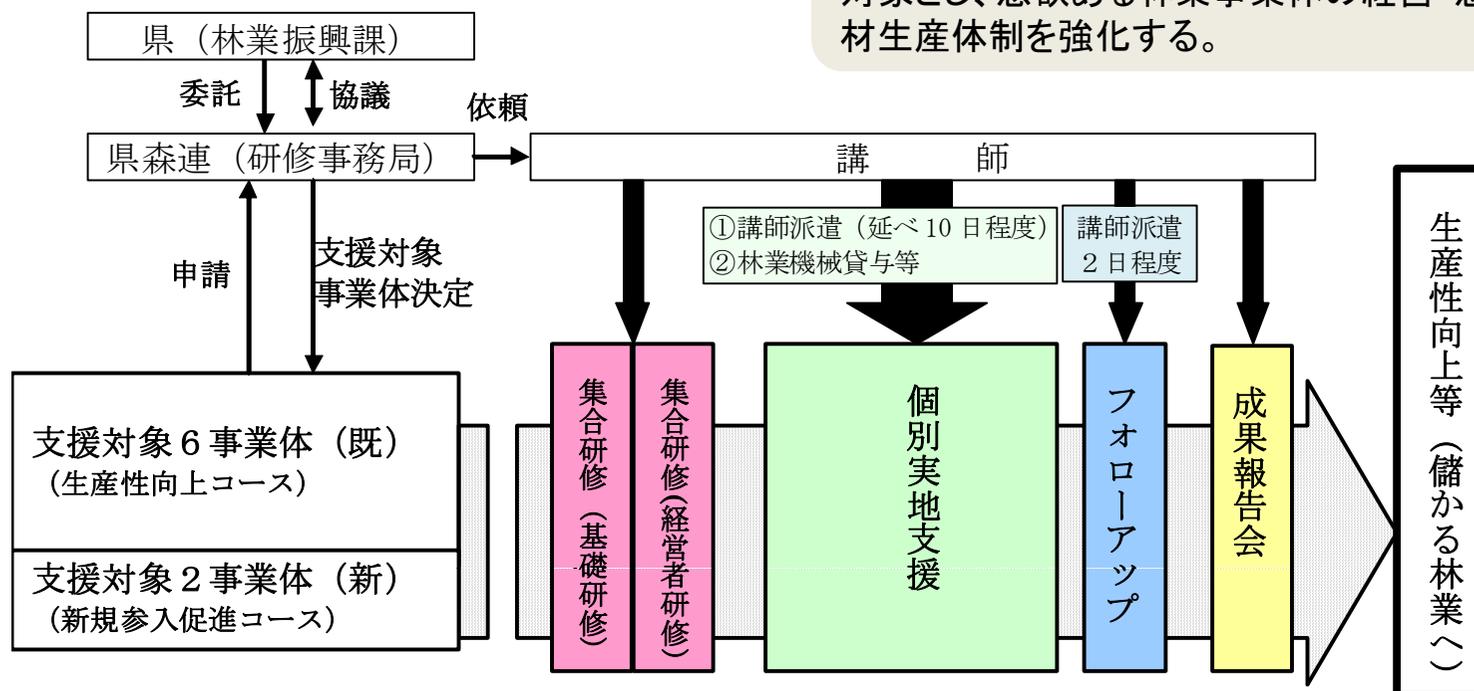
静岡県では、

- ① 需要に応じた計画生産
  - ② 山元還元を増やす低コスト生産
  - ③ 流通コストをカットする直送販売
- に取り組む林業を「ビジネス林業」と位置づけ、その展開を支援している。

(概要)

・公募で選定した林業事業体に対して、生産計画の作成から、生産システムの構築、作業道の開設、木材生産(伐採、搬出)、販売の実践を指導する講師を派遣し、生産に必要な高性能林業機械を貸与する。

・今年度は8事業体、平成24、25年度はそれぞれ12事業体を対象とし、意欲ある林業事業体の経営・意識改革を図り、素材生産体制を強化する。



今年度から3年間で、県内事業体の4分の1に相当する26事業体を支援する。

また、その成果を他の事業体に広め、素材生産体制の強化を図る。

# ☆素材生産体制の強化の事例☆ (愛媛県)

## 久万林業活性化プロジェクト(愛媛県上浮穴郡久万高原町)

久万高原町では、豊富な森林資源を地域活性化に結びつけるため、平成17年度から日吉町森林組合の提案型集約化施業をモデルとした「久万林業活性化プロジェクト」に取り組み、町ぐるみで素材生産体制の強化に努めている。

### (1) 推進体制

久万広域森林組合の中に提案型集約化施業を実施する久万林業活性化センターを設け、森林組合職員12名とともに、町職員2名、県職員1名が派遣され共同で事業を推進している。

### (2) 方法(図1)

日吉町森林組合の提案型集約化施業と大きく違うのは、外部の林業事業体に仕事を発注する(⑥)ことである。これにより地元の雇用の場の創出、地域経済への波及効果を狙っている。

### (3) 事業実績(図2)

年々実績が上がっており、特に地区座談会や組織の改善を行った平成20年度以降は急激な伸びを見せ、平成22年度は間伐面積723ha、素材生産量3万m<sup>3</sup>となり、管内の原木市場取扱量の20%を占めるまでになっている。

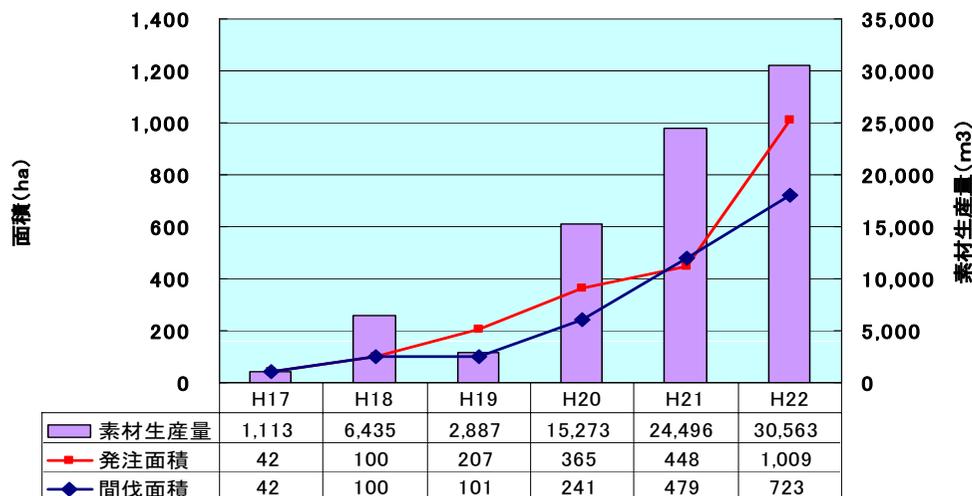
### (4) 地域波及効果(図3)

林業就業者では100名の増加、素材生産量は35,000m<sup>3</sup>の増加(原木市場ベース)、地域経済波及効果は約37億円に達している。

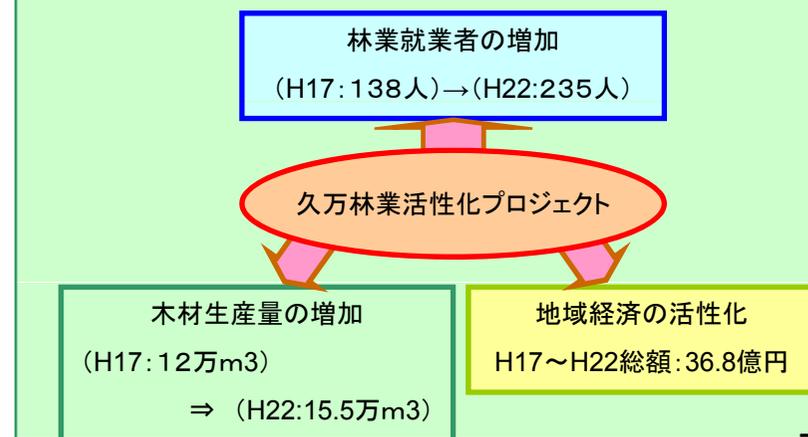
(図1)久万林業活性化プロジェクトのフロー



図2 久万林業活性化プロジェクト実績



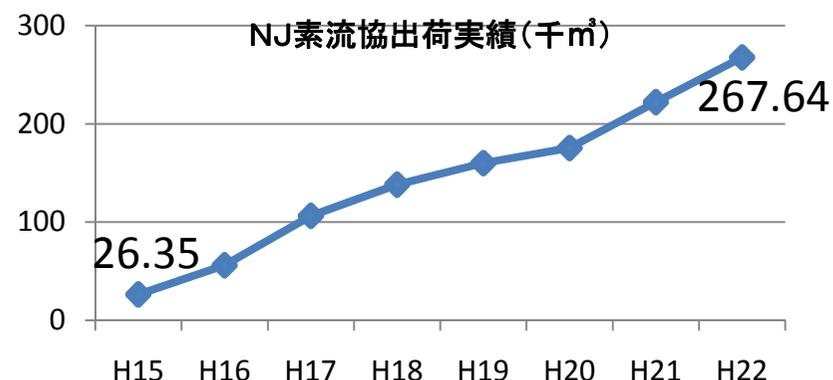
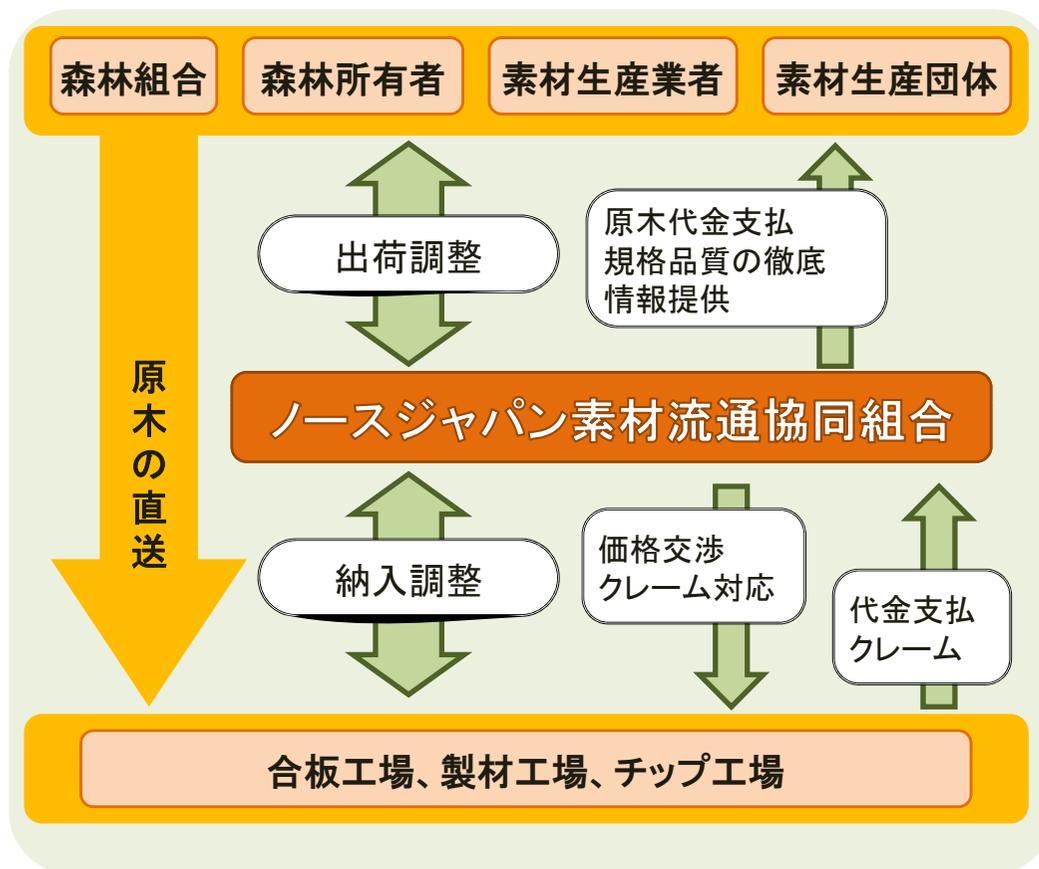
(図3)久万林業活性化プロジェクト地域波及効果



## 6 原木の安定供給と流通体制

# ☆大口需要者に向けた県産素材の安定供給☆(岩手県)

## ノースジャパン素材流通協同組合(盛岡市)



### 概要

#### 1 集荷範囲

- ・ 岩手県・北海道・青森県・秋田県・宮城県

#### 2 出荷実績

- ・ H15 26.35千m<sup>3</sup> → H22 237.64千m<sup>3</sup>  
(ホクヨープライウッド(株)、北日本プライウッド(株)ほかへ出荷)

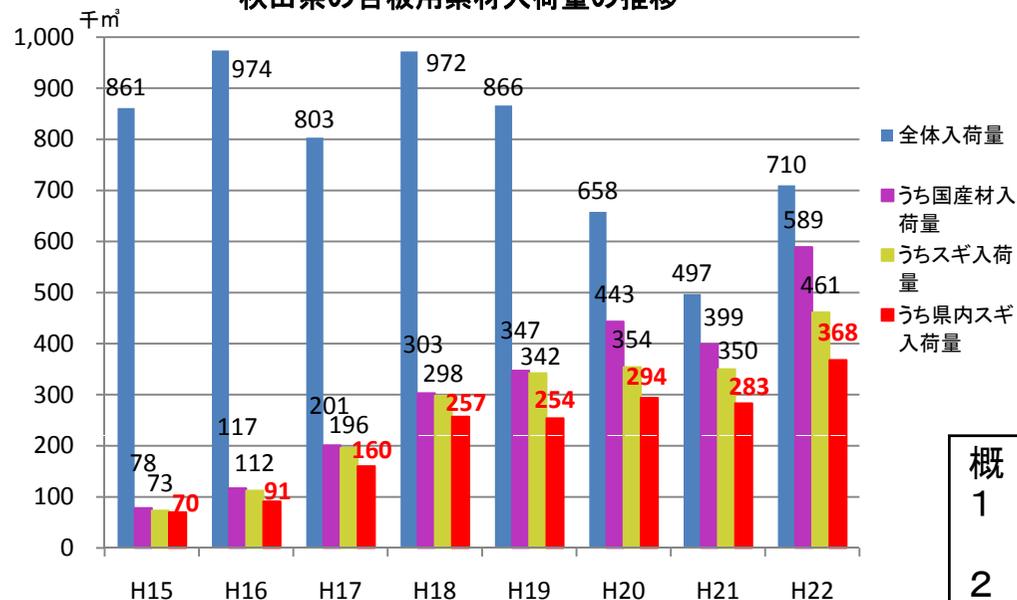
#### 3 原木の安定的仕入・出荷のための取組

- ・ 小規模な素材生産業者も取り組みやすい仕組  
(工場との調整、代金決裁・与信管理一元化)
- ・ 組合員との信頼関係の構築  
(現地訪問・研修・意見交換会の実施)
- ・ 集成材工場など新たな顧客の確保

# ☆合板用原木の安定供給の事例☆(秋田県)

## 秋田スギ合板用原木需給協議会の設置

秋田県の合板用素材入荷量の推移



合板工場での原木積み下ろし作業



避難所で合板製の間仕切りを設置(宮城県栗原市)



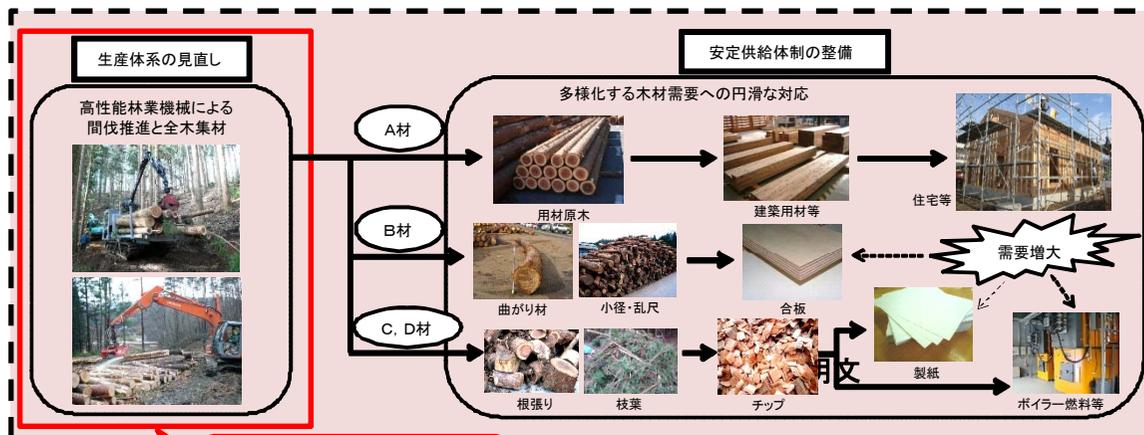
### 概要

- 1 設立  
平成15年2月
- 2 目的  
秋田スギを中心とする県産材を活用した普及促進に資するため、原木の確保に関して需給情報の交換を行うとともに、円滑な需要維持を図るうえで必要な事項を協議する。
- 3 構成  
秋田県森林組合連合会、秋田県素材生産事業協同組合連合会、秋田県合板産業連合会、県
- 4 今後の課題
  - ・東日本大震災に伴う合板用原木の広域流通化への対応
  - ・来年度、秋田県内において稼働予定の大規模製材工場や石炭火力発電所での木質バイオマス利用等、原木の新たな需要への対応

# ☆原木の安定供給と流通体制の事例☆(福島県)

## 高性能林業機械実践研修会～県産材フル活用に向けて～

県振興計画で取り組む県産材フル活用イメージ図



現地研修  
スイングヤーダによる集材作業

### 今回の取組



現地研修  
フォワーダの基本運転・操作実習

### 概要

- 1 高性能林業機械実践研修会の目的  
H21、H22年度森林・林業・木材産業づくり交付金により72台の高性能林業機械が県内に導入したことから、高性能導入機械の効率的な稼働と安全性向上、現場作業員の技術力向上を図るため、導入機械を操作する作業員を対象とした実践研修会を開催し、福島県における間伐の推進と原木の安定供給体制の構築に資するものである。
- 2 研修の内容  
高性能林業機械メンテナンス講習(座学)  
災害事例の紹介及び対策(グループ討論)  
現場研修(造材、集材、積込み積み降ろし、オイル交換)  
H22、H23年度に開催し、各回約60名が参加
- 3 研修主催  
(社)福島県林業協会(林業労働力確保支援センター)

# ☆スギ花粉発生源対策事業(主伐)の事例☆(東京都)



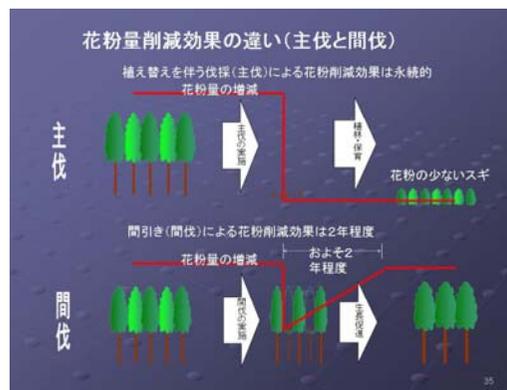
主伐現場



貯木場(木材の集積と選別)



原木市場(木材販売)

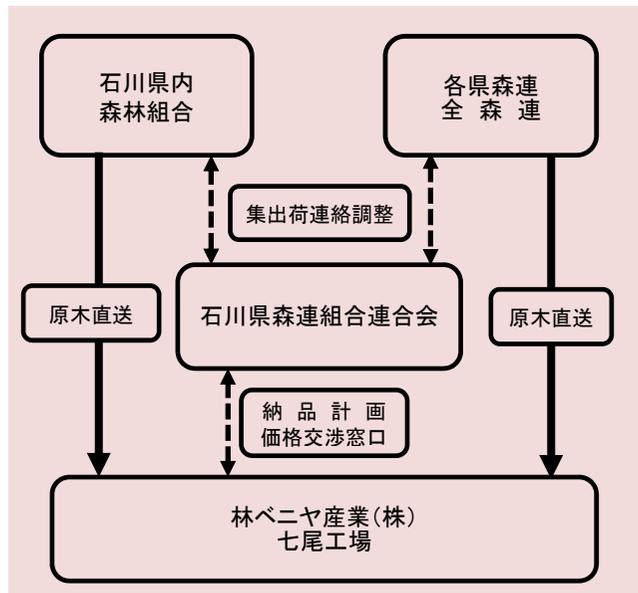


## 【概要】

- 主伐事業面積 92ha(平成22年度実績)  
308ha(平成18年～平成22年度累計)
- 多摩産材取扱量(平成22年度実績)  
12,172m<sup>3</sup> (内、主伐事業に係る材8,213 m<sup>3</sup>)

# ☆森林組合連合会による原木の安定供給の取組事例☆

## 林ベニヤ産業(株)七尾工場(石川県七尾市)



(安定供給体制の仕組み)



(ロータリーレースによる加工)



(出荷待ちの製品)



(工場内で集積されている原木)

### 概要

#### 1 取組関係者

林ベニヤ産業(株)七尾工場、県森連(石川・富山・福井・岐阜・長野・静岡・山梨・全森連)など

#### 2 特徴

- ・石川県森連を窓口とし7県森連及び全森連が連携し供給(共同供給体制の構築)
- ・価格等の交渉は供給県森連と林ベニヤが一同に会し定期的に行なわれる(交渉力UP)

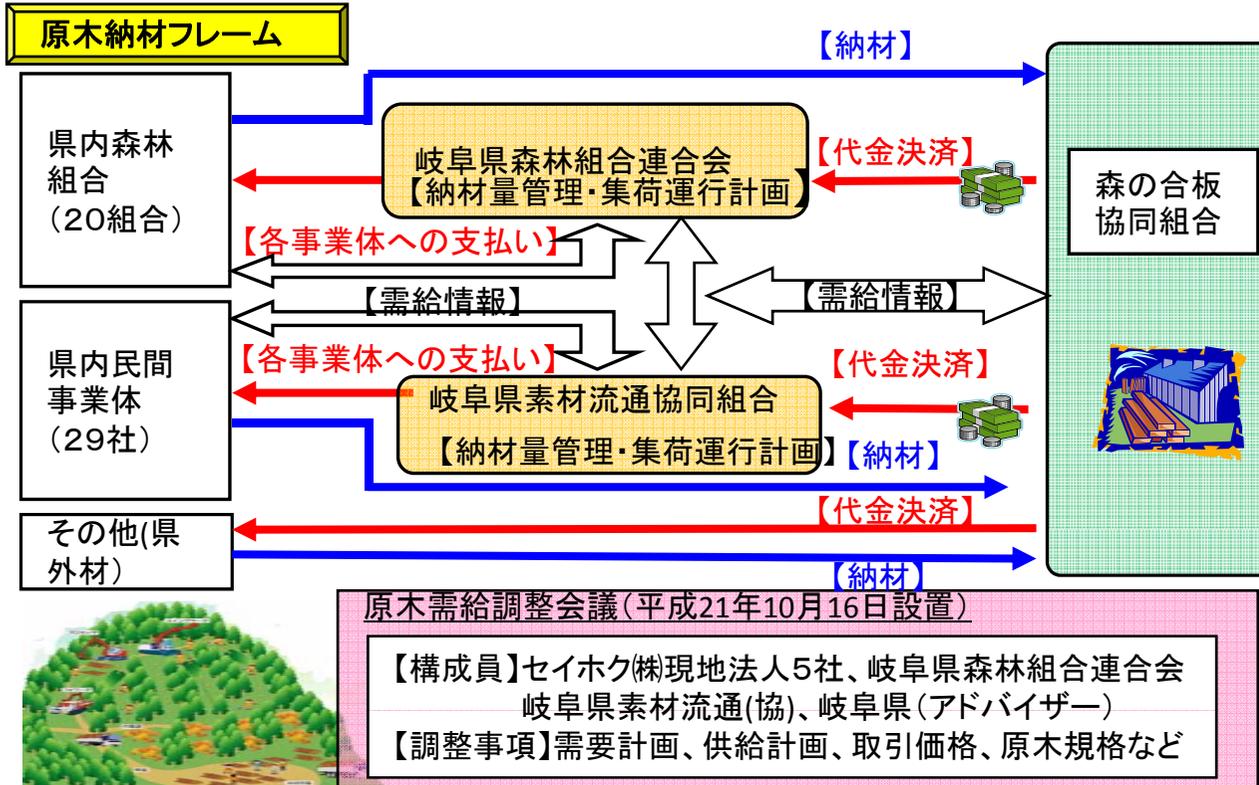
#### 3 実績(販売量の推移)

	取組当初	H19実績	H20実績	H21実績	H22実績	H23計画
石川県(m <sup>3</sup> )	5,330	7,000	10,800	18,000	19,000	20,000
系統総計(m <sup>3</sup> )	—	46,100	77,500	87,100	109,100	125,000

# ☆原木安定供給と流通体制の事例☆(岐阜県)

(様式2-③)

## 森の合板工場(岐阜県中津川市)



### 概要

- 1 原木集荷量(H23.4~H23.9)  
スギ 48千m<sup>3</sup>、カラマツ18千m<sup>3</sup>、ヒノキほか3千m<sup>3</sup>
- 2 仕入先: 岐阜県森林組合連合会、森の合板協同組合  
岐阜県素材流通協同組合
- 3 製品生産量(H23.4~H23.9)及び出荷先  
・構造材合板 156万枚: 住宅メーカー、地元工務店
- 4 原木の安定的仕入のための取組  
・原木需給コーディネーターによる造材仕分け指導  
・4半期毎に決定される原木価格による買い取りと中間土場等から合板工場への直送

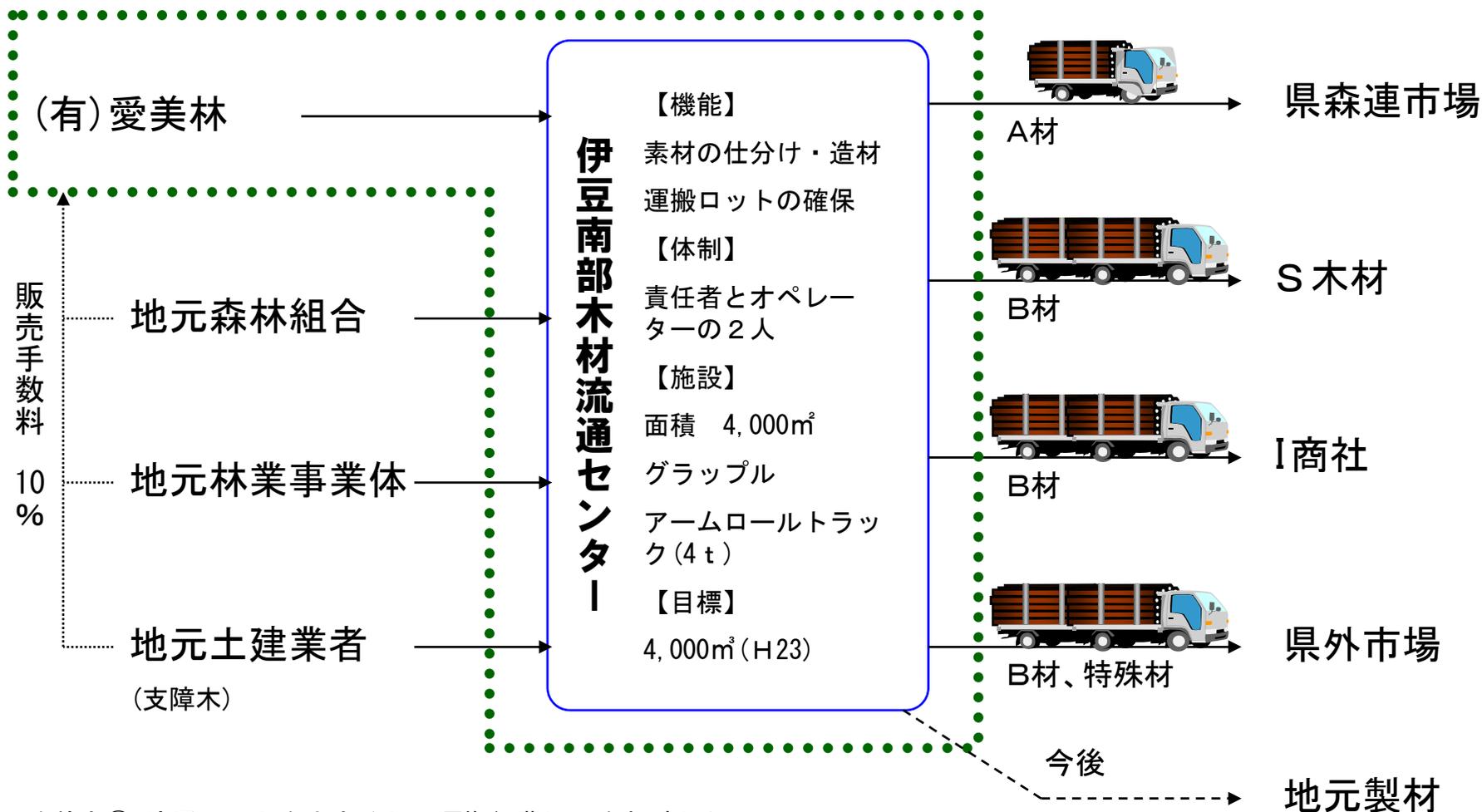
# ☆原木の安定供給と流通体制の事例☆(静岡県)

## 伊豆南部木材流通センター(静岡県下田市ほか)

売り方(供給)

問題点① 伊豆半島の南部は、市場から遠く運搬経費が嵩む。  
問題点② それぞれが、それぞれに販売していた。

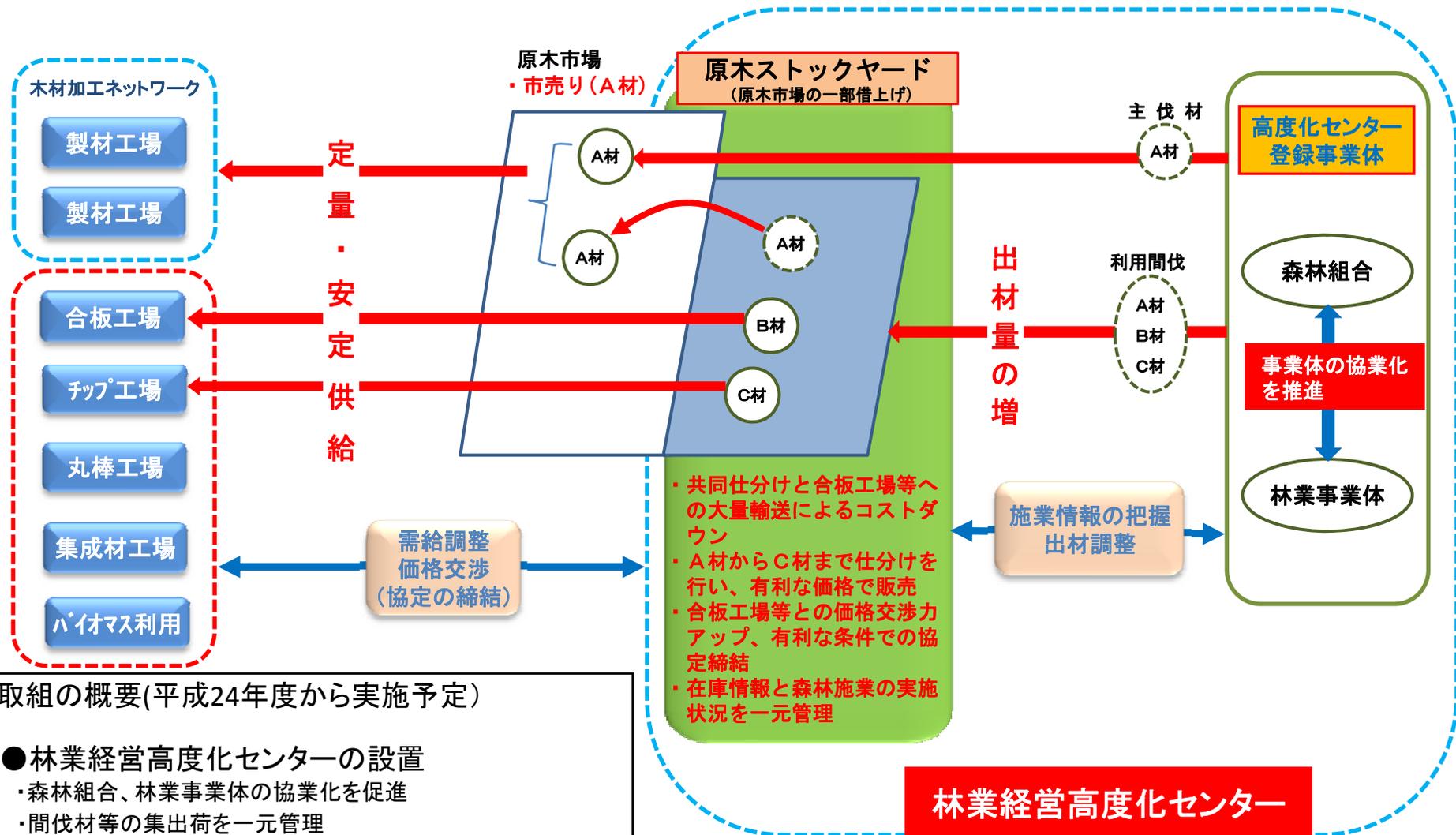
買い方(需要)



改善点① 流通ロットを大きくし、運搬経費ほかを削減した。  
改善点② 流通ロットを大きくし、買い方に安定供給した。

# ☆原木の安定供給と流通体制整備の事例(京都府)

## 「林業経営高度化センター」の設置による原木供給体制の整備



### 取組の概要(平成24年度から実施予定)

- 林業経営高度化センターの設置
  - ・森林組合、林業事業体の協業化を促進
  - ・間伐材等の集出荷を一元管理
  - ・原木のストックヤードを設置
  - ・将来的には、B・C材の定額買い取りの実施
  - ・センターの運営は京都府森林組合連合会が行う

# 大型製材工場への原木直送システムの実践（鳥取県）

「桜林塾」で、森林所有者は林業の経営方法、伐採方法等を学習



若桜素材生産共同体は意欲的に原木を伐採し、町内製材工場へ直接出荷



県内最大規模の若桜木材協同組合で製材加工



出荷量UP!

H21:1,400m<sup>3</sup>

↓  
H22:6,000m<sup>3</sup>

色艶の良い若桜スギは、豊明殿をはじめ、町内外の多くの建築物に使用されている



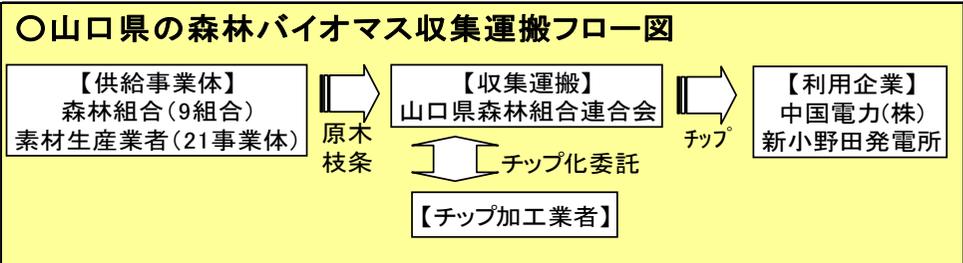


# ☆既設火力発電所における石炭混焼の事例☆

## 山口県全域を対象とした森林バイオマス収集システム(山口県)



効率的な収集運搬のための専用機材の開発(減容化機能等)



### 【概要】

中国電力(株)新小野田発電所では、平成19年度より石炭混焼に着手しているが、平成23年2月に森林バイオマスの受入設備を増設したことから、今後、森林バイオマス利用量の大幅な増大が見込まれている。(H23年度計画量:20千トン、H24年度計画量:25千トン)

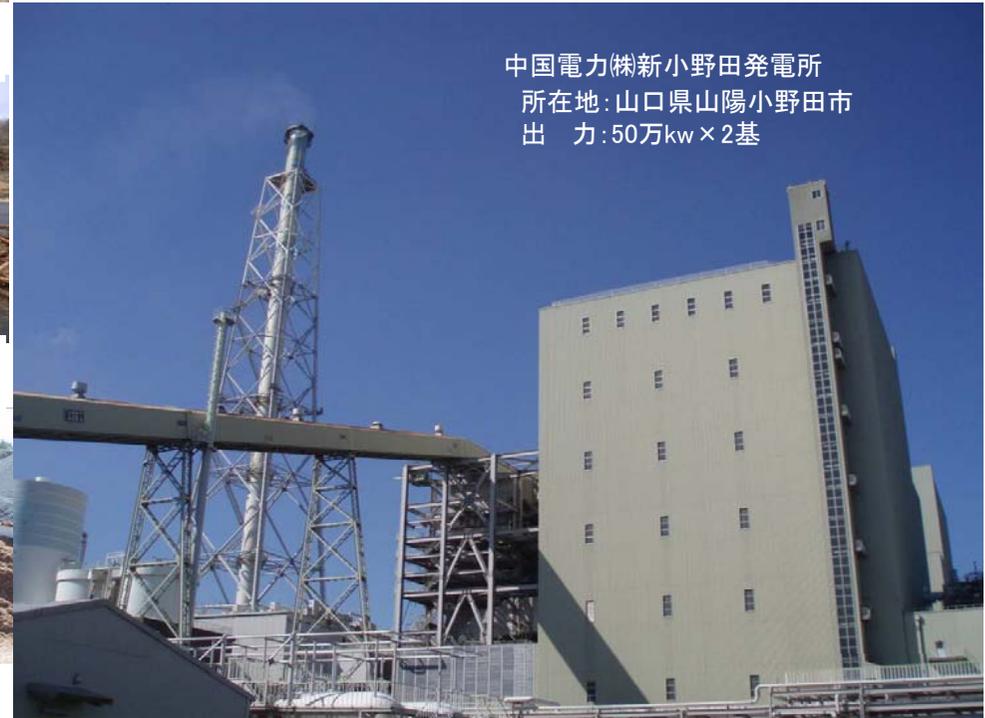
この需要に対応するため、山口県森林組合連合会を中心とした供給体制が構築されており、県内の森林組合・素材生産業者が行う木材生産活動と連携することにより、森林バイオマスの安定的な供給が図られている。



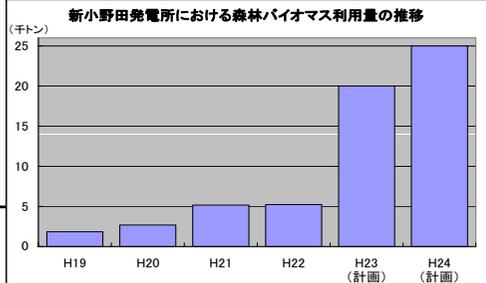
チップ加工業者による森林バイオマスのチップ化



新小野田発電所での森林バイオマスの受入

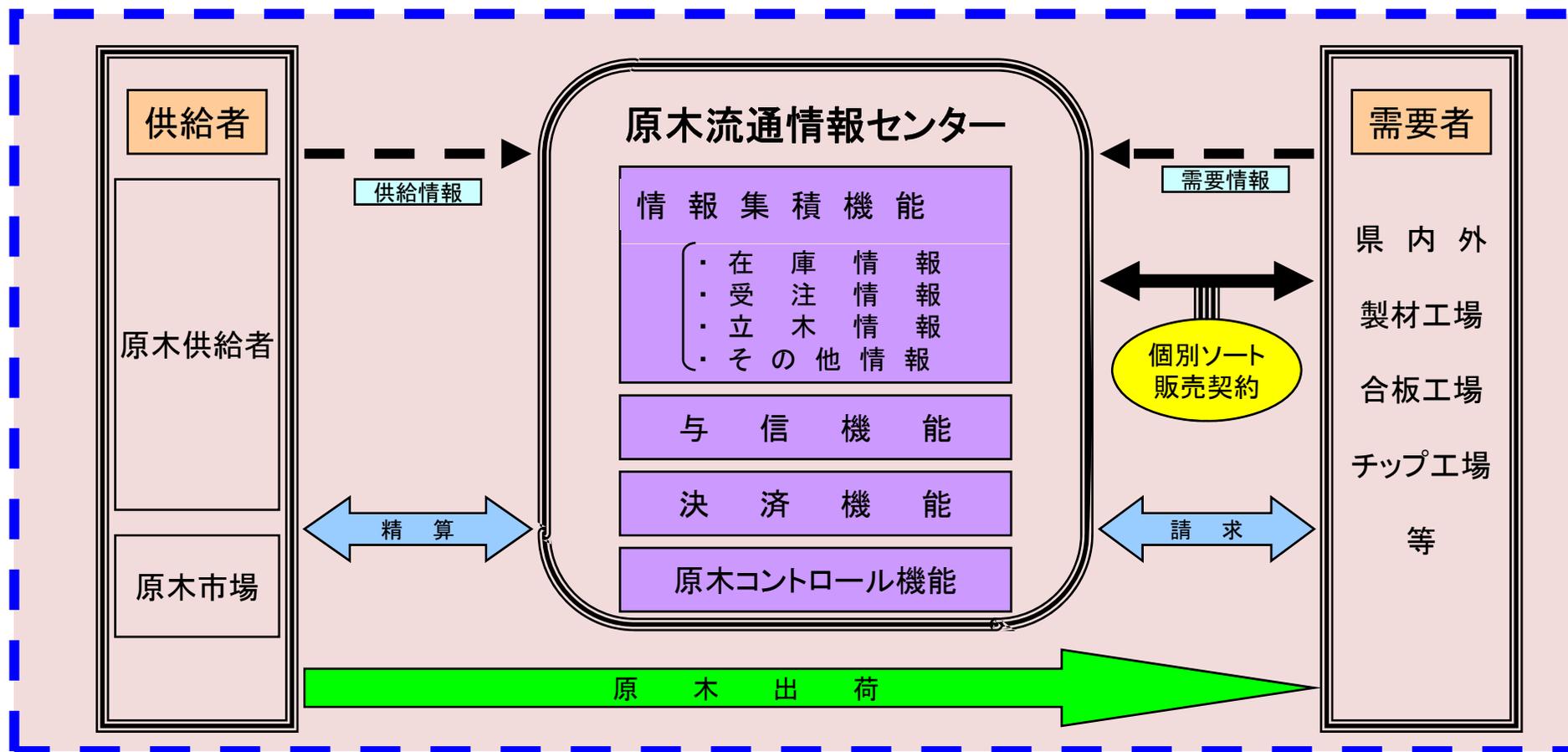


中国電力(株)新小野田発電所  
所在地:山口県山陽小野田市  
出力:50万kw×2基



# 原木流通のコーディネート体制(鹿児島県)

## 鹿児島県原木流通情報センター



### 概要

#### 1 販売量の推移

(単位:m<sup>3</sup>)

年 度	H19	H20	H21	H22
取扱量	15,578	17,527	13,205	24,998

2 取引工場(製材工場等)延べ数 33工場

3 所在 県森林組合連合会内